

平成27年度 第3回 尼崎市社会教育委員会議について

標題の会議が、次のとおり行われましたので報告します。

1 と き

平成27年9月7日(月)午後3時30分から午後5時30分まで

2 と ころ

尼崎市立文化財収蔵庫

3 出欠状況(順不同)

- (1) 出席委員 11名
- (2) 欠席委員 1名
- (3) 出席職員 6名

4 会議成立の報告

司会者より定数12名中10名(途中出席1名)が出席し、会議が成立している旨の報告があった。

5 会議内容

協議事項

議題1 平成26年度社会教育委員会議の協議経過とまとめについて報告

社会教育課長より報告を行った。

7月27日に行われた教育委員会定例会において、平成26年度社会教育委員会議の協議内容と、併せて、社会教育委員からいただいた意見が本年度の施策に活かされていることを報告した。

教育委員からは、今年度の新たな取組(土曜学習支援モデル事業・特別支援ボランティア事業等)についても、学社連携(学校教育課と社会教育課)が大切であり、今後も教育委員会で報告をしていただきたい。

また、平成19年度社会教育委員会議の提言に捉われすぎているところがあるので、検証をした結果、現状に即したものに変わっていった方がいいように思うとの意見をいただいた。

事務局としても、平成19年度の提言は、総合計画に反映されているので、総合計画を中心に協議を進めたいと考えている。

議題2 総合計画に係る社会教育関連施策と今後の取組について

尼崎市総合計画における社会教育部関連施策「17地域の歴史」について説明を行い、今後、市民・事業者それぞれの立場からどのような取組や関わりができるのか、前回の総合計画、市制100周年の流れを踏まえて協議を行った。

「17地域の歴史 ~歴史遺産を守り活かすまち~ - 01・02・03」について、歴博・文化財担当課長より説明を行った。

【施策の基本情報】

展開方向 行政が取り組んでいくこと 平成27年度に向けた取組方針

これまでの取組の成果と課題 平成28年度に向けた取組方針、新規・拡充の提案につなげる項目・改革・改善の提案につながる項目 市民・事業者が取組んでいくこと。 施策評価結果（二次評価）

【17 歴史遺産を守り活かすまち】

01 文化財や歴史資料等の地域資源を保存・活用するとともに、地域の歴史や文化財に関する情報を市内外に発信します。

新規・拡充の提案につながる項目

- 【史跡・文化財や歴史資料等の各種収集資料の保存・公開、観光資源としての活用】
- ・歴史資料等の公開・活用については、市制100周年を契機として、尼崎発祥の地である城内地区のまちづくりの基幹施設となる（仮称）歴史文化センターの整備により、歴史豊かな尼崎の魅力を市内外に発信する。
 - ・平成26年度に開催した懇話会での意見を踏まえ、富松城跡をはじめとした歴史遺産の保全に努め、地域住民等とも連携しながら活用し、歴史のまち尼崎の情報発信に努めることで、歴史を活かした市民との協働のまちづくりを進める。

施策評価結果（二次評価）

- ・史跡や文化財を活かしたまちづくりを市民と協働して進めていく。
- ・市制100周年記念の企画展等の開催においても、解説等をより丁寧に行うことで、市民が郷土を愛し、より地域の歴史等の理解が深まるよう工夫を図る。

02 地域の歴史に関心を持つ市民の学習機会や場所の充実など、ともに学びあえる環境づくりを進めます。

新規・拡充の提案につながる項目

【地域の歴史や文化財に触れる機会の提供】

- ・歴史学習機会の提供に関しては、引き続き、より効果的な手法の開発や市民ボランティア養成の継続的实施等を進めるとともに、参加者の増加を図っていく。また、親子で参加できる事業を更に開拓し、歴史を通じて郷土愛を育む機会を提供していく。

施策評価結果（二次評価）

- ・市民が、史跡や文化財等の固有の地域資源について学ぶとともに、将来につなぎ、活用していくための拠点施設の整備が求められている。このため、整備に係る費用を 勘案した上で、（仮称）歴史文化センターを効果的に整備し、より本市の魅力を高めていく。併せて、より史跡や文化財の適切な保存方法を検討していくとともに、魅力ある地域資源の発信について、検討していく。

03 住んでいる地域や尼崎市への愛着や誇りが育つよう、地域や歴史や文化財等の魅力をわかりやすくしっかりと伝えていきます。

新規・拡充の提案につながる項目

【市民が歴史を調べ学ぶことのできる拠点施設の整備】

- ・（仮称）歴史文化センターの整備に関しては、平成26年度の耐震診断結果を踏まえ、平成28年度から城内地区整備の一環、および市制100周年記念事業の一環として、歴史学習の拠点施設の整備を進める。

【学校や社会教育施設、市民グループ等との連携による歴史・文化に触れる学習機会や場の拡充】

- ・社会教育施設との連携については、小学生の副読本「わたしたちの尼崎」に掲載されている施設等に子どもたちが訪れる事業を受け入れるとともに、公民館や図書館と連携して施設利用者のニーズ把握に努め、引き続き効果的な事業実施について検討を行う。また、田能資料館は弥生時代の集落をビジュアルに体感できる施設であり、このような遺跡博物館は阪神間では唯一であるため、近隣各市からの学校をはじめ多くの方が訪れる施設となっている。こうしたことから、尼崎の魅力を市内外に発信するとともに、更なる学習機会の充実を図るべく、老朽化が進んでいる復元施設の改修に取り組む。

施策評価結果（二次評価）

- ・文化財収蔵庫や田能資料館等において、展示内容や事業の連携等を図ることで、本市の歴史や文化に対する理解度を深めることができている。
- ・今後は、より一層、史跡や文化財を活かしたまちづくりを戦略的に推進し、地域の史跡や文化財を大切にする市民意識の醸成等につなげ、より現状を前進させることが必要である。
- ・田能資料館は、尼崎の貴重な施設であることから、市民と協働して、保存やより活用できる手法等について、検討する。

〔委員からの意見等〕

- ・今年6月に、田能資料館の見学をさせていただきとてもいい施設であると感じた。ただ、立地場所が尼崎市の北の端で、行きにくい現状がある。近隣の市町村と広域的な連携等はあるのか。
- ・来年市制100周年という機会であり、尼崎の歴史を振り返る、また、これからの未来を考えるきっかけとして、社会教育委員として何か実践できるのではないかと。例えば、地域の人に呼びかけて、田能資料館に一緒に行ってみるなど、何かできることを考えたいと思っている。
- ・社会教育委員の役割として、社会教育委員会議としての会議体としての役割と社会教育委員個人としての役割がある
- ・田能資料館のような施設は阪神間にあるのか。
- ・文化財収蔵庫や中央図書館は、自宅から近いということもあり社会教育委員として意識的に足を運んでいる。感じるのは意外と地元の方が利用していないという現状で、施設から情報発信をさせていただいていると思うが、活用されていない。自分自身は社会教育委員として、地域の集まりなどで施設の宣伝をするようにしている。
- ・来館者を増やすには、施設が魅力的でないといけない。子どもたちが興味を示すような漫画を置くなど、子どもの感覚を大切にして、施設の整備を考えていただきたい。
- ・城内地区のまちづくりの拠点整備（歴史文化センター構想）は、どのような進み具合なのか。
- ・伊丹市の小学校は田能遺跡（田能資料館）に行っているが、地元の尼崎市の学校が行っていないのはなぜなのか。地元の歴史を習う機会は大切だと思うが。
- ・文化財収蔵庫の藍染体験をさせていただき、とても子どもたちは喜んでおり良い事

業であった。来て見て知る魅力のある施設であると思う。

〔事務局からの説明等〕

- ・豊中・伊丹市等と連携して近隣の遺跡めぐりバスツアーを実施するなど合同の事業を行っている。
- ・年間約3万人の来館者の内、約70%は市外からの方であり、市外の方にも尼崎の良いところ（歴史）に触れていただいていると感じている。
- ・伊丹市・川西市からの来館者が多いが、反対に尼崎市民（児童）の来館が少ないのが課題である。
- ・園和北小学校では「田能クラブ」をつくって活動されており、学芸員が指導に出向くなどなど交流を図っている。
- ・田能資料館のように、常時展示があって学芸員がいる施設は殆どない。兵庫県下でも播磨町にある大中遺跡ぐらいであり、非常に数は少ない貴重な施設である。
- ・昨年度は、市内の小学校24校が文化財収蔵庫の見学に訪れた。ボランティアの方の協力もあり体験学習を取り入れたプログラムで楽しんでもらった。
- ・今年度の市民まつりが、阪神尼崎駅周辺で行われるため、図書館や文化財収蔵庫のPRをパンフレットに入れていただくなど副議長の協力をいただいている。
- ・城内地区のまちづくりの基幹施設となる整備については、企画財政局が中心に計画を進めており、具体的な情報はまだない。文化財収蔵庫を含めて（仮称）歴史文化センターとする構想についても詳細は今後になる。
- ・地域の歴史（田能資料遺跡）学習という意味では、「わたしたちの尼崎」という資料本で3年生から学習する機会と、6年生の日本史の中で弥生時代を学ぶ時に田能遺跡に触れる。他市もその頃の来館者が多い。
- ・伊丹市については、田能資料館半分は伊丹市の土地であり、伊丹の歴史として田能遺跡が語られている。
- ・尼崎市は、バスの確保等ができず、来館状況が低い。
- ・田能資料館の入館者については、昨年度と比較して8月末現在で4千人ほど増えている。勾玉づくりのPRや市民ウオークのポイント場所にするなど、知っていただく取組を進めている。
- ・田能遺跡は尼崎の貴重な資源なので、特に子どもたちを中心に利用者を増やしていきたいと考えている。

「02生涯学習 - 01・02・03」について、

スポーツ振興課長より、前回の会議でいただいた意見により、新たに行った事業について報告を行った。

- ・前回、ご意見をいただいた子ども会事業（ラジオ体操）の協力について検討し、スポーツ推進委員の派遣を計画した。結果的には雨天のため流れてしまったが、ひとつのきっかけであり、これまでは、主に公園等に出向いての活動であったが、今後はもう少し幅を広げた活動を開拓したいと考えている。

〔委員からの意見等〕

- ・今回、すぐに対応いただき感謝している。武庫地区のラジオ体操は毎回70名程の参加者があり、スポーツ推進委員の派遣については、子ども達も楽しみにしていた。

ラジオ体操は健康増進のためにも良いので、来年度も是非お願いしたい。

社会教育課長より、施策評価の2次評価について報告を行った。

02生涯学習 - 01 施策評価結果(二次評価)

- ・公民館での講座受講者数や図書館行事への参加者数は増加しており、学習機会の提供と情報発信による市民参画の促進は図られている。
- ・公民館については館運営にとどまらず、今後は、地域が抱える多様な課題を解決し、地域を活性化していく視点を持ち、学びの成果を地域活動につなげたり、学校活動と連携する機会を創出する仕組みづくりが必要である。
- ・また、市民の自主的な学習を支援したり、学習の成果を地域づくりに活かすためには、それらをコーディネートする人材の育成や、職員のレベルアップも必要となる。

02生涯学習 - 02 施策評価結果(二次評価)

- ・目標指標の各項目が総体的に減少傾向にあるが、生活習慣病や介護予防の観点からも市民の健康維持は重要な課題であるため、後期5ヵ年がスタートした「尼崎市スポーツ推進計画」に基づき、より効果的な情報発信や事業実施手法を実践しながら、同計画の数値目標である「健康を意識した運動やスポーツを心がけている市民の割合の10%増」に向け取組を進めていく。
- ・学校開放事業については、地域に身近なスポーツの拠点として誰もが参加しやすくなる工夫を行い、利用者増に向けた取組を進めるとともに、将来的な地域での運営について、引き続き取組を進めていく。

02生涯学習 - 03 施策評価結果(二次評価)

- ・子育てに関する各種取組については、参加者数の増や交流促進が図られており、地域で子育てを支援する環境づくりに寄与していることから、引き続き現行の取組を進めていく。
- ・少子化・高齢化や価値観の多様化といった社会環境の変化を踏まえながら、生きがいづくりや地域での交流促進を図るためには、誰もが自由に学ぶことのできる機会や学びの成果を活かす機会の提供が必要であり、それらを提供しつつ役割として、引き続き公民館のコーディネート機能の強化に向けた取組を進めていく。
- ・また、引き続き旧梅香小学校敷地において、市民の出会い、学び合い、支え合い、繋ぎ合いと、活発で元気な地域づくりを創出する拠点施設の整備を進める。

【事務局からの説明等】

- ・市民提案型事業「みんなのサマーセミナー」について報告
(委員から提案があった「ああ尼崎市民家族」が校歌として歌われた。)
- ・中央図書館の月間貸し出し数が過去最高(6年ぶり)を記録した。また、市内15の施設で本の貸し出しを行っているが、児童書の月間貸し出し数も過去最高(3年ぶり)を記録した。平成27年度の全体の貸し出し冊数については、8月時点で昨年度より5万冊増となっている。総合計画で平成29年度に掲げている年間目標150万冊を目指して工夫をしていきたいと考えている。
- ・図書館の取組として、全く貸し出されていない本に注目していただけるような工夫や、

図書館司書による本の選び方講座、大人のためのシネマの実施など、読書につながる取組を進めている。

- ・中央図書館では、夏休み期間の来館者がほぼ毎日1,000人を超える利用があった。

〔委員からの意見等〕

- ・図書館の努力が感じられる。児童書の利用が増えていることがとても良いことで、嬉しく思う。
- ・寝たきりにならないための予防の講座等が実施されているが、元気な方はやり続けることもできるかと思うが、運動が苦手、身体的に難しい高齢者はラジオ体操も厳しい。日常的に簡単にできる、安全で効果的な運動があるはずである。例えば「ああ尼崎市民家族」に合わせた簡単な動きをつけた体操を考案するなど検討できないか。

〔議長より〕

施策評価02生涯学習-01の改革・改善につながる項目の中に、「スクールサポーターの取組に対する支援に加え、「学校支援地域本部」の設置に向けた検討を行う。」という内容が記載されている。これは、これまでの社会教育委員会議で長く検討されてきた課題であり、学校（学校教育）と地域（社会教育）が連携・協力することの必要性を検討されてきたものである。今年度は、土曜学習支援モデル事業がその一環として実施されているが、今後も、引き続き社会教育委員会議として学社連携の充実について、推し進めていく必要があると考えていることを頭に留めていただきたい。

6 その他報告事項等

- ・兵庫県社会教育委員協議会研修会の報告。
- ・阪神南社会教育委員会議協議会の報告。
- ・近畿地区社会教育研究大会（奈良大会）の報告。
- ・社会教育関係事業（社会教育関係団体等役員名簿（現在25団体）・公民館のあゆみ等）ついて、事務局から説明。
- ・文化財収蔵庫の説明・見学

以 上